

平成16年度 入学宣誓式 学長告辞

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

本日、ここに入学式を迎えられた798名の皆さんに対し、京都工芸繊維大学を代表して心から歓迎の意を表します。今日、皆さんの若い新しい力を迎え入れることができたことは、京都工芸繊維大学にとって、大きな喜びであります。

皆さんは、今日の入学式をそれぞれに喜びと希望をもって迎えられたことと思いますが、皆さんを取り巻く社会状況は、日々厳しさを増しつつあります。地球環境問題、エネルギー問題、民族問題、都市問題、富の南北間格差、宗教の対立といった問題が地球を存亡の危機に陥れています。グローバル化と情報化の波が怒濤のように押し寄せ、従来の考え方では対処できない、新たな問題がわれわれに突きつけられています。

こうした新たな問題群に立ち向かい、地球規模での危機的状況を打開・克服するためには、新たな人間像に基づく新たなパラダイムの構築が必要です。今日、多くの社会システムに変革が求められ、さらに、人間のあり方が問い直されているのは、このような社会的背景によるものです。

このような中で、どのように人生設計を行うかは、われわれ全てがそれぞれに考えなければならない問題ですが、特に本日入学された皆さんにとっては、重要な喫緊の課題であります。

皆さんが京都工芸繊維大学で取り組むべき課題について具体的に考えてみたいと思います。皆さんもご存知のように、科学技術の目覚ましい発達はわれわれの生活の利便性を飛躍的に高めました。しかしその半面で、地球環境問題などの深刻な問題が顕在化し、特に、先進国においては、科学技術に対する強い不信がみられるに至っています。

この現状を如何に克服するかという課題に対して、人間性と自然との共生に根ざした様々な提言がなされています。たとえば、アメリカの認知科学者である D. A. Norman は、人間と道具との関わりに関する多くの著書を著していますが、その中で、21世紀に向けた新しい人間中心の標語として『人間が提案し、科学が探求し、技術がそれに従う。』という提言をしています。

このような、科学・技術と人間のあり方についての考え方の変遷は、世界の進歩の象徴として開催されてきた万国博覧会で掲げられるテーマの中に顕著に表れています。20世紀前半に開催されたシカゴ万博では、標語の他に博覧会の「テーマ」が初めて設定されましたが、それは「進歩の世紀」であり、科学技術が明るい未来を拓くという当時の時代精神をよく表したものでした。一方、20世紀最後のハノーバー万博のテーマは「人間—自然—技術」であり、2005年に開催される愛知万博は「自然の叡知」、2010年に予定されている上海万博は「Better City, Better Life」です。このように、21世紀を迎えた世界は、科学技術偏重の価値観から、人間や他の生物、そして無生物までも含めた地球環境重視の価値観へと大きく変化しています。21世紀に生きる我々は、このような変化を十分に認識し、人間の社

会や地球環境を守り、発展させてゆくために、どのような貢献ができるかを常に考えて行かなければなりません。

社会がどのような運命を辿るかは、結局のところ、そこに生きる人々の精神の有り方に帰着するものです。社会の構成メンバーが、それぞれの場で実現しようとする価値が何であるかが、地球とそこに住む人間の将来を規定するといえます。この意味で、将来の世代の教育を引き受ける大学は、社会的に重い責任を負っています。大学は、もはや社会の秩序の安定性や有効性に頼って教育の営みを行うわけにはいきません。むしろ、社会の変革、新たな社会の創造に必要な人材の供給が、社会的任務となります。この点で京都工芸繊維大学も応分の責任を果たさなければなりません。

長い歴史と伝統を誇る本学は、去る 2000 年に開学 100 周年を迎えましたが、その折、「科学と芸術 一出合いを求めて」という標語を掲げました。また、本年 4 月からスタートした国立大学法人として、文部科学省に提出する大学の中期目標・中期計画の中では、本学の歴史の中で培われた学問的蓄積の上に、感性を重視した人間性の涵養、自然環境との共生、芸術的創造性との協働などを特に意識した「新しい実学」を開拓することを謳っています。これらのことは、いずれも、科学技術偏重の弊害が明かとなった 20 世紀の反省に立って、人間や環境を中心とした、新たな教育と研究の体系を構築しようという本学の立場を表すものです。

今日入学された皆さんは、このような本学の目標を十分に認識し、これから学び、研究する事柄が、人間の社会や地球環境を守り、発展させてゆくために、どのような貢献ができるかを常に考えて行かなければなりません。

実際に皆さんが学部レベルで行う勉強や研究は、個別的領域における具体的なテーマに絞ったものになるでしょう。しかし、その中にあっても、常により広い視野に立って、自らが取り組んでいる課題が、社会や環境にとってどのような意味を持ち、価値を持つかを問い続けることが、大学で学び、研究するものに求められる資質であり責任であります。

皆さんにとって大学は、第一義的には学び、研究する場ですが、同時に日常生活を通して身体的・精神的に成長する場でもあります。専門分野の勉強や研究とともに、幅広い教養や豊かな人間性を備えた社会人となるため、地域社会や文化活動にも積極的に関わって頂きたいと思います。また、そのような関わりの中で、真の友人を得ることができれば、皆さんにとって一生の宝となるでしょう。人生の中でも最も活動的で多感なこれからの 4 年間は、皆さんにとって充実したものとなるよう祈っております。

皆さんの大学生活が実り多いものであることを期待し、お祝いの言葉と致します。

平成 16 年 4 月 5 日
京都工芸繊維大学長
江島義道